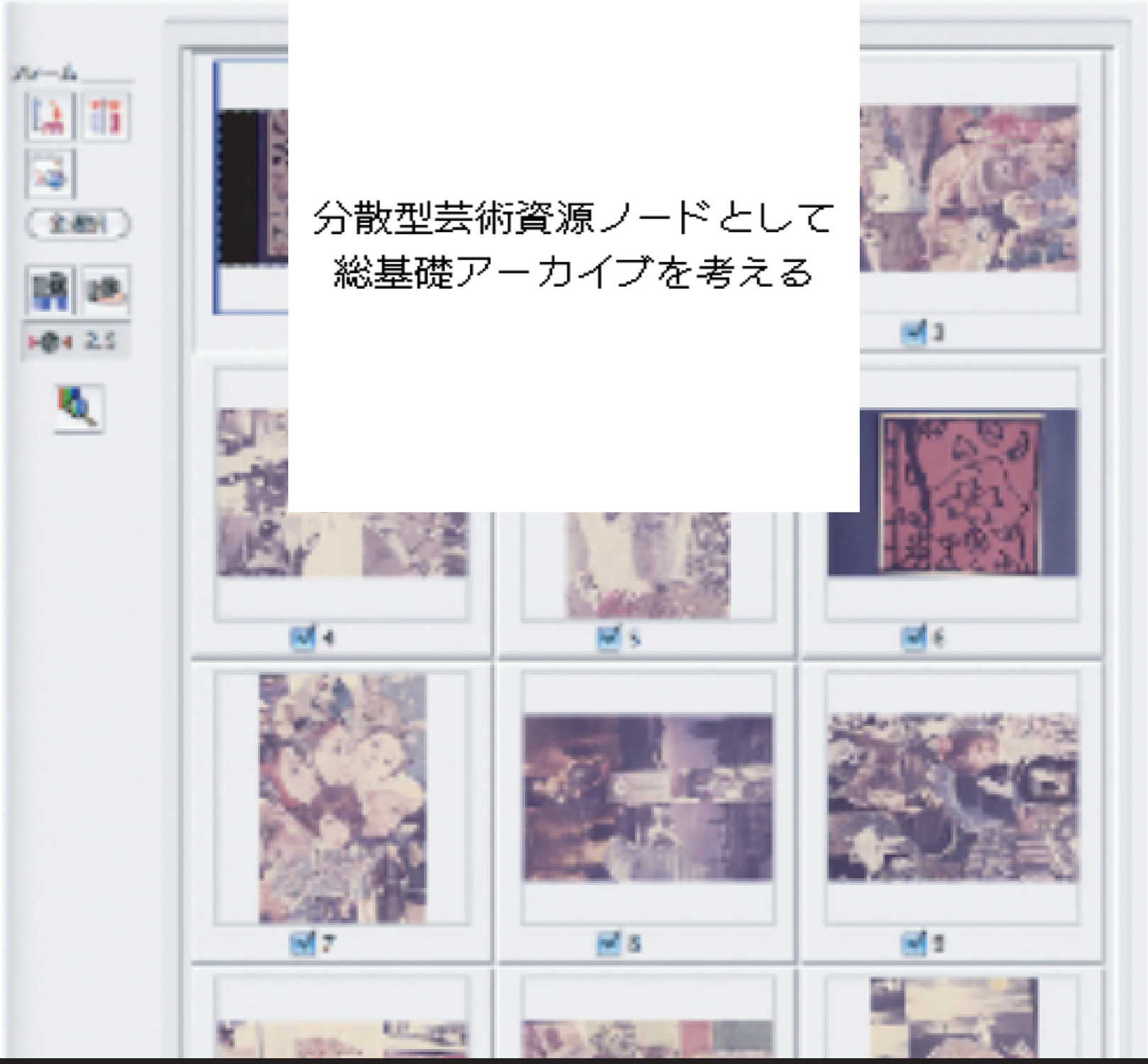

分散型芸術資源ノードとして総基礎アーカイブを考える

アーカイブをリブートする：
分散型芸術資源の実例を用いたワークショップ＆シンポジウム

2024年3月20日（水）・21日（木）・22日（金）
13:00-16:00　13:00-16:00　14:00-16:00

2023年度、京都市立芸術大学はコロナ禍前後という「時間的断絶」と、キャンパス移転という「空間的断絶」を経験した。この二つの断絶によって、① 継承されてきた物理資料群の見直しと再整理 ② 新しいアーカイブ像の模索という、アーカイブを資源として活用する二種類の活動が生まれた。また、上記二つのアーカイブ／アーカイヴィング活動は、その対象をアグリゲートする作業と個々のノードに着目する作業が相互的かつ独特のダイナミズムのもとで進められている。本シンポジウムでは、京都市立芸術大学で実践されているこれらのアーカイブ／アーカイヴィング活動が分散型芸術資源のノードモデルになりうることに着目し、その可能性について考える。芸術的創作のトリガーとしてアーカイブを調べる・考える・動かす・生かすための議論は、分散型芸術資源アーカイブにとって有意義なものになるはずである。

場所｜京都市立芸術大学芸術資源研究センター

分散型芸術資源のノードとして、総基礎アーカイブを考える

アーカイブをリブートする：総基礎 2023 を振り返るワークショップ＆シンポジウム

開催日：**3/20 ～ 3/22**
開催場所：**京都市立芸術大学芸術資源研究センター**

概要：
コロナ禍が明け、対面形式での実技も再開された 2023 年度の総合基礎実技（以下、総基礎）は、沓掛キャンパスでの最後の総基礎ともなった。今年度は、50 年間以上の歴史を刻んできた総基礎の歴史においても、エポックメイキングな年になるかもしれない。総基礎アーカイブはこの間、密かにリブートをはかっていた。芸資研が中心となって、継承されてきた物理資料群を見直しつつ、新しいアーカイブ象を模索する取り組みである。
コロナ禍前後という「時間的断絶」と、キャンパス移転という「空間的断絶」を、総基礎アーカイブはもろともしない強靭さを備えている。この二つの断絶を好機としたかのように、アーカイブを資源として活用した二つの大きなプロジェクトもあった。さらには、断絶を奇しくも貫く分散型芸術資源研究という視座もある。

今回は、アーカイブ作業としては必ずしも表立っては出てこなかった分散型芸術資源としての総基礎アーカイブについて、関係者とともに考えたい。
芸術分野でのアーカイブというと最近まで、個々のアーカイブをアグリゲート＝統合する試みが着目されてきた。しかし、アグリゲートされる個々のノード（一つ一つのアーカイブ）にアグリゲーターは必ずしもコミットしない／できない。この点で、独特のダイナミクスを発揮し始めている総基礎アーカイブは分散型芸術資源のノードモデルになりうるのではないか。
アーカイブを調べる・考える・動かす・生かすための議論は、分散型芸術資源アーカイブにとっても有意義なものになるはずである。

スケジュール：
1 日目（3/20）「第一部：作業編」
場所：芸術資源研究センター
時間：13:00 - 16:00

不破さんと佐俣さんから、2023 年度後期の総基礎アーカイブ作業についての報告をしてもらう。作業方法の改善点や不明だった点等も指摘してもらう。従来の整理方法への発展的包括作業をおこなう。クローズドワークショップ。

2 日目（3/21）「第二部：準備・現在編」
場所：芸術資源研究センター
時間：13:00 - 16:00

分散型アーカイブのノードとしての総基礎アーカイブを念頭に、参加予定メンバーも加えたトークセッションと作業。3 日目の「未来編」への準備（総基礎アーカイブ指針設定）も兼ねる。

3 日目（3/22）「第三部：未来・展開編　オープンシンポジウム」
場所：芸術資源研究センター
時間：14:00 - 16:00

総基礎アーカイブを分散型芸術資源アーカイブのひとつの例として捉え、その過去・現在を俯瞰しアーカイブ活動の今後の展望や分散型芸術資源としての可能性を探るオープンシンポジウム。1 日目、2 日目の作業編・準備編の成果を共有したのち、登壇者と総基礎アーカイブの過去・現在・未来への展望について議論する。

内容：　1_ 導入：分散型芸術資源の例としての総基礎アーカイブ（石原先生）
2_ 共通ガイダンスのはじまりと変遷～大学改革案を絡めて～（井上先生）
3_2023 年度時点のアーカイブ進捗状況報告（佐俣先生・不破先生）
4_ 総合基礎実技アーカイブの展望と課題（藤岡先生、万葉先生、黒川先生）

分散型アーカイブとしての総基礎アーカイブの可能性は？フリーディスカッション